

POLEPOLE 5 / 23

TALK&LIVE 2018 NAGASAKI

ケニア×モザンビーク

18:00-20:30

長崎創楽堂

(長崎大学文教キャンパス)

Admission Free

入場無料

音楽で希望を生み出すスラムの寺子屋

モザンビーク共和国北部・カーボデルガド州、
州都ベンバのスラム地区・ナティティで寺子屋を営む
榎本恵&ナジャ。

ケニア共和国ナイロビ市のキベラスラムで
子どもたちと音楽活動を行う早川千晶&大西匡哉。

ケニアとモザンビークが会って共に奏でる音楽、
アフリカ2か国のスラムからのリアルな話。

スラムで生きる子どもたちの命の輝き、未来への夢。
アフリカと繋がるひとときを長大で！！



Nadja

モザンビークのギタリスト&ボーカリスト



早川千晶
Chiaki Hayakawa
ケニア、マゴソスクール



大西匡哉
Masaya Onishi
Musician/Ngoma Drummer



ナジャ&榎本恵
Nadja&Megumi Enomoto
モザンビークのいのちをつなぐ会

主催：日本アフリカ学会九州支部
多文化社会学部アフリカハウス <https://www.facebook.com/sghssafricahouse/>
共催：マゴソスクールを支える会 <http://magoso.jp/>
モザンビークのいのちをつなぐ会 <http://www.tsunagukai.com/>

お問い合わせ
増田研 (長崎大学) ken-m@nagasaki-u.ac.jp
095-819-2923



【Nadja】ナジャ

ギタリスト&ボーカリスト。

1987年モザンビーク共和国・カーポデルガド州・ムエダ生まれ。ペンバ在住。マコンデ民族。

モザンビークを代表するミュージシャンである故Nangundoを叔父に持ち、幼少期よりアフロンバをはじめとしたアフロミュージックを学び、民族の誇りや社会問題を作詞作曲して歌い上げる。

5歳までモザンビークの悲惨な内戦を経験しており、同じ国民同士が傷つけ合い、血を流した記憶が、ナジャの争いごとを怖れ、平和を心から望む、精神の一要素となっている。

マコンデ族の伝統と精神を歌に込めながら、今世代の音楽を切り開いており、隔年行われるモザンビーク最大規模の音楽祭での公演や、行政の社会貢献イベント（GALA）での演奏、また大統領選挙のキャンペーンアーティストとしても起用され、精力的に活動を展開。直近では2017年2月にモザンビーク大統領夫人とスワジランド王妃のセレモニーでも演奏を行ない、喝采を博した。

2015年には「第1回アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアー」で初来日し、日本11都府県で59公演を実施。2016年度は「マコンデ族ナジャのアミーゴ公演」を8都府県40ヶ所で実施。2017年度には「第2回アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアー」を14都府県80箇所で開催した。両年ともに新聞テレビ各社から取り上げられ、大きな反響を呼んだ。

また彼の出身在住地区であるスラムの子供・青年たちの可能性を切り開くため、「モザンビークのいのちをつなく会」の活動も設立時から手伝っており、ペンバ美化活動やスラムの学舎・寺子屋での音楽教室などにも注力している。



榎本恵【Megumi Enomoto】

福岡県北九州市小倉生まれ。ペンバ・ナティティ地区在住。大学卒業後、京都、東京の広告代理店で販促・ブランド開発・商業開発に関するプランナー&コピーライターとして勤務。2000年に事業拡大支援を行うPlanning MAYを開業し、インキュベーション事業、販促、人材育成などを行う。主に環境・農業系企業、通販・教育系企業の支援を手がける。

2012年、日系バイオ燃料企業のモザンビーク進出をきっかけに、初めてアフリカの地を踏む。半年間、新規事業開発業務を行う。現地での目当たりにした環境問題と貧困問題のジレンマ、先進国と後進国の都合論の不調和を少しでも解消すべく2013年4月「モザンビークのいのちをつなく会」を設立。

今年の長大ポレポレは2日連続！

マゴソスクールを運営する早川千晶さんと大西匡哉さんが、ケニア・ドゥルマ民族の伝統継承者に任命されました。伝統をつなげるために、アフリカの人々が模索する道をケニアから伝えます。

特別講演 早川千晶&大西匡哉 センゲーニャ・ジャパニ

ケニアのスラムに学校を建てる決意、ドゥルマ民族の伝統を受け継ぐ決意

ミュージシャン。ケニア伝統太鼓「ンゴマ」奏者。打楽器奏者、ギタリスト、シンガー。映像作家。2004年からケニアのドゥルマ民族の村で伝統文化継承者スワレ・マテラ・マサイ氏に師事し、20人目の息子となった。8年間に渡るケニア音楽修行を終え2013年帰国。アフリカンスタイルを取り入れたアコースティックギターで歌うオリジナル曲にも定評がある。ドゥルマ民族の伝統打楽器「ンゴマ・ンネ」に独自の楽器を加えたセットでオリジナルティ溢れるライブを展開している。アフリカの伝統音楽家とそのコミュニティをサポートするためのプロジェクトJWEを設立。知られざる伝統音楽の発掘、CD制作、音楽を通じての村おこしに取り組んでいる。2018年、ドゥルマ民族の伝統音楽センゲーニャの継承者・14名の旗持の1人として正式に就任。聖地カヤダムラへの民族回帰計画のサポートを開始。Sengeny Japan代表。

CD「センゲーニャ〜東アフリカの伝統音楽 ドゥルマ・デゴ・ラバイ」、『TWEENE NYUMBANI〜ケベラスラムの歌声 Vol.1』、『MILELE〜ケベラスラムの歌声 Vol.2』、『Tupendane〜アシアオウ1』、『MASAI〜東アフリカの伝統音楽 マサイ』、『Afrika〜ケベラスラムの歌声 Vol.3』、『大西匡哉VLOGアルバムTuvuta Pamaja』、『BALANGOMA〜Yiriba大きな樹』をリリース。ケベラスラムの子どもたちとの映像作品「マゴソTV.1」、マサイ民族のドキュメンタリー「マサイのいま〜伝統と変化のはざまを」を制作中。



大西匡哉【Maasya Onishi】

5/22

18:00-19:30
多文化32教室

長崎大学文教キャンパス
総合教育研究棟3階



早川千晶【Chiaki Hayakawa】

ケニア在住29年。ケベラスラムのマゴソスクール運営者。一般財団法人mudef (music design foundation) 理事。撮影コーディネーター、通訳、ライター、「アフリカに深く触れる旅」案内人。

1985年より旅を始める。世界放浪の旅の後ケニアに定住。1999年、ナイロビ最大級のスラム・ケベラで、孤児・ストリートチルドレン・貧困児童のための駆け込み寺「マゴソスクール」を設立。ミリアニニ村にジュンバ・ラフトト（子どもの家）、ケベラスラム出身の高校生・大学生の奨学生グループ「マゴソBOGクラブ」、マゴソ洋裁作業所、障がい児特別学校などを運営している。

マサイ民族、ドゥルマ民族など伝統文化を守り自然と共に生きる民族とのつながりが強く、現代社会での問題に共に取り組み、相互理解の懸け橋となる交流企画に取り組んでいる。著書に、「アフリカ日和」（旅行人）。1999年から日本全国各地でアフリカトーク&ライブのツアーを展開。2015年度第5回眞川賞受賞。2018年ドゥルマ民族の旗持に就任

